

未来志創

4/9 金

通心002(第642号)

頼まれごととは試されごと

先日、担任の思いの一つとして「頼まれごととは試されごと」という考えを紹介しました。これは中村文昭さんという方から学んだ考えです。中村文昭さんは、18歳の時に家出同然で単身上京しました。そこでちょっとした事件があり、職務質問を受けたお巡りさんに弟のように可愛がられます。ある日、そのお巡りさんに連れて行ってもらった焼き鳥屋で出会った大物リーダーに影響を受け、その場で弟子入りしました。その後、飲食店の経営を手がけ、現在では、自分の経験を生かした講演活動や人材育成に力を入れています。この中村文昭さんが弟子入りした師匠から教わった「4つのスピリッツ」を紹介します。

実際に僕がやってきたことですが、現状はどうあれ、結局は次の四つのことをしていれば、どこで何をしていても可能性の芽が出てくると言えます。

まず、先輩から何か言われたら、**返事を0.2秒**ですること。

損得を考えていると、返事が遅くなるものです。僕は、返事を0.2秒で、つまり、何を言われても、「よっしゃ、この人にはNOはない」と、**損得勘定抜き**の心意気で構えていました。

二つ目には、「**頼まれごととは試されごと**」の覚悟です。これは、人からものを頼まれた時に、「面倒だなあ」とか、「うっとうしいな」ではなく、**自分は今「試されてるのだ」という発想**で、「よっしゃ、**この人の予測を上回ってやれ**」と、一生懸命やっていたわけです。

しかし、何かをしようとした場合、多くの人は、体を動かす前にできない理由をつぶやいてしまうものです。「でも、今は時間がないし」とか「でも、前例がないし」などということをつい口にして、やれることもやらず時間だけを無駄にしてしまいます。

三つ目は、「**できない理由を言わない**」ということです。

そして四つ目は、今できることがあるはずなのに、「そのうちするさ、そのうちするさ」と、先送りすることをやめ、**今できることを、探してもやる**ということです。つまり、大なり小なり、今、目の前にあることをどんどんクリアしていくのです。

これらは、師匠である田端さんから教えられたことですが、こうした戒めを胸に僕は若い時からやってきたわけです。

「お前にこの先何があったとしても、その“0.2秒の返事”をしていくだけで、自分では止められんぐらい可能性が広がるよ」

そう言っていた田端さんの言葉どおり、僕は今、レストランの経営はもとより、各地で講演を行い、何冊も本を出し、素晴らしい仲間たちと出会い、お蔭さまで本当にいろいろな場面で活動させてもらっているのです。『僕たちの“夢のつかみ方”をすべて語ろう!』(中村文昭・大嶋啓介)

①**0.2秒の返事**、②**頼まれごととは試されごと**、③**できない理由を言わない**、④**今できることを探してもやる**。これらの共通点は、「できそうで、なかなかできていない」ということかもしれません。見方を変えれば、「ちょっと頑張ればできそう」だと捉えることもできますね。「返事をする」「頼まれごとを引き受ける」「人のためになる行動をする」「目の前のことに取り組む」といった当たり前前に思える行動の質を少し上げてみませんか? 新たなスタートを切った今だからこそ、小さな挑戦を積み重ねることで「挑越」へと繋げていきたいものです。

挑越